

近畿財務局長との意見交換会

3月3日 於(財)京都産業21 2階会議室

高木金属(株) 高木 正司

上記日程にて近畿財務局長大村雅基様との意見交換会が近畿財務局京都財務事務所長大橋正勝様、京都産業21高橋専務理事、石田課長、内田主任同席の元行われました。機青連からは現行三役、次期三役、元代表幹事より9名が出席いたしました。前半は大村近畿財務局長より「日本経済の活性化の為に」(勝負の年2004年)と題してご挨拶と現状の説明をお話いただきました。

まず2004年の課題。なぜ勝負の年なのかという理由と今成さねばならない事を簡潔にお話されました。目前に迫る社会保険・財政再建・ペイオフ等の課題に対し、自立と自信回復が見える企業家精神復活の兆しが見受けられ、今度は英米の改革に続き日本が成果を出す番であるという事でした。続いて株価の上昇、経済の現状として経済のトレンド、ポイントをあげられました。回復基調にあるという点、それは公共事業依存でなく勢いと持続性のある企業の自立から生まれている点、しかし輸出、生産・設備等、海外経済に依存している為に企業収益は上昇しても個人所得は変わらず消費低迷や雇用問題につながっている点をトレンドとされ、円高や金融セクターなどのリスクやデフレ解消、リストラ・戦略対応等による企業改革の進展、ニーズ開拓・アジアとの棲み分け・質の再評価等による企業の自信回復、空洞化と棲み分けをポイントとしてあげられました。

続いて構造改革については80年代の進めねばならなかった改革であり、変化に対応する改革である。社会や経済の成熟、少子高齢化に伴う活力減退やグローバル化の進展等潮流の変化に対応が求められているとお話されました。またその後構造改革の本質、財政の現状、税の空洞化等構造改革についてご説明いただき、経済活性化のポイントとし、民間主導の活力ある経済、地域の自立と再生、社会保険制度と少子化対策、持続可能な財政をあげられてお話されました。

最後に中小企業と地域活性化、地域活性化と関西についてお話され、キーワードとして「自立」と「持続性」を取り上げておられました。独自技術・ブランド、需要ニーズへの対応、独自のネットワークを持つ活力ある中小企業。そしてグローバルな持続性を持つ企業。政策の方向は、伸びるものは伸ばすといった自立の支援、グローバル化への支援、比較優位の維持に向いている。その為に経済環境の安定、産・官・学連携・人材育成、使い勝手の改善等を求められていると分析されていました。とりわけ関西はアジアとの連携も著しく、期待される今後の将来像として、アジアの中核となり潜在的魅力の連携が生まれる活力のある地域であるとお話を結ばれました。

意見交換では景気、円高の影響、金融機関の対応について意見を求められました。機青連からは機青連の紹介、機青連事業の説明の後、地域としての産業の活性化について意見交換があり、今後の対応や補助金、融資、今後の景気動向について質問がありました。中小企業という立場から産・官・学連携の使い勝手、設備投資時の特別控除、規制緩和に伴う問題、人材育成や雇用不足、教育制度問題、環境問題という多方面多岐に渡る質問に答えていただきました。

意見交換会を終えて、やはり想像以上に情報を収集し分析されているという印象でした。お話の中で随所に「自立」と「持続性」という言葉が繰り返し使われていました。変わる方法で変わって行く。従業員も含めた個人の自立。中小企業は家業から企業への改革。ニーズに合った独自技術、環境の変化に対応できる弾力性を持つ企業への変貌。それを具体化するのが今後の課題であり、持続していく活路なのでしょう。2004年は勝負の年です。「自立」を念頭に置いてがんばります。

今回、意見交換会の機会をいただいた大村近畿経済局長様、場所の提供をいただいた(財)京都産業21様本当にありがとうございました